

「伝え合う力」を育てる発信型の国語科学習

— “ジェンダー” と自分らしい生き方 (中学校3年生における実践) —

佐藤 洋一

(愛知教育大学 国語教育講座)

左近 妙子

(名古屋市立上社中学校教諭)

The positive type of learning in the Japanese language to develop “your ability to communicate your thoughts and feelings to others”

Yoich SATO

Taeko SAKON

新学習指導要領「国語科」に於いて、今回新たに「伝え合う力」の育成という双方向的なコミュニケーション能力の重要性が提示された。これは21世紀の言語教育における基礎基本の一つとして、単に国語科のみの学習内容というより、学校教育全体の基礎・基本としての重要な意味がある。しかし、移行期の現在、「伝え合う力」の授業実践の多くは児童生徒に付けるべき国語科「言語能力」の位置付けや評価観・指導技術や学習段階等が曖昧で混乱している。安易なスピーチや発表・報告・話し合い等は、情報や資料、説明文等を「読むこと」や論理的な報告を「書くこと」といった系統的な言語能力育成を分断したところでの活動のみの学習となっている。

本稿は、国語科における緊急の実践課題でありながら混乱の多い「伝え合う力」の育成を中心に「国語科としての言語能力の基礎基本」を生徒全員に身に付けさせ、さらに「正確で個性的な情報理解と発信・評価」の方法の基本的な授業モデルを、実践的に提案することにある。コミュニケーション能力としての「伝え合う力」育成という課題を、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」「読むこと」と立体的に関連させながら、段階的な学習過程を構成し、論理的で個性的な「伝え合う力」を育てる。さらにこうした学習の上に、“ジェンダー入門”という形で現代社会における人間らしく個性的な生き方の意味について情報発信の学習を構成したものである。

キーワード 「伝え合う力」 国語科の基礎基本 段階的な学習 ジェンダー

はじめに—新学習指導要領と「伝え合う力」—

新学習指導要領の告示によって、情報化・国際社会の枠組みの中で、また完全週五日制下で生涯学習につながる「生きる力」を育てる新国語科の方向が示された。中でも、今回の国語科の目標に新しく付け加えられた「伝え合う力」の育成が実践上の大きな課題となっている。本稿における「伝え合う力」を育てる発信型の国語科学習のポイントは大きく2つである。

(1)「段階的な学習過程」を構成し、論理的で個性的な「伝え合う力」を身につけさせる。

「伝え合う力」は、「話す・聞く」の音声言語による伝達面のみが強調されがちである。しかし、論理的で個性的な「伝え合う力」を育てるためには、「読むこと」「書くこと」の文字言語との関連から段階的に指導していくことが必要である。

(2)確かに「伝え合う」ための方法を、音声言語と文字言語を相互に関連させながらの指導・支援。

確かに伝え合い、豊かな話し合いを成立させるためには、そのための観点や方法の指導・支援が必要である。そこで学習過程の各段階で、学習の基本と方法が明確になるようなシンプルなワークシートを用いて、確かに「伝え合う」ための観点や方法を指導・支援していく。さらに音声言語と文字言語を相互に関連させ

ながら指導することにより、場面や状況に応じた「伝え合う力」を育成する。

1. 「ジェンダー」と生き方を考える学習

21世紀社会の課題として、環境問題、福祉問題などが挙げられるが、中でもジェンダーをめぐる問題が近年重要視されてきている。ジェンダーとは、生物学的な意味での「性」と区別し、社会的・歴史的につくられてきた制度的「性役割」を意味する。生徒たちを取り巻く日常生活は、性役割や就職問題・メディアなどを通してこのような問題と関わらざるを得ないような状況にさらされており、生徒たちの関心も非常に高い問題である。しかし学校教育においては、これまでジェンダーについて積極的には取り上げられず、逆に性差別を再生産しているのが現状である。今学校教育として必要なのは、「ジェンダー」の視点を教え、そこから人間という存在や現代社会を見直して、より自分らしい生き方を探ることである。

そこで本実践では発信学習の題材として「ジェンダー」を取り上げ、中学三年生のこの時期に、広くジェンダーに関する基本学習(入門)を行った。

2. 実践の概要

(1)対象生徒 中学校3年生 3学級 82名

(2)生徒の実態

- ①進路選択を控えて心理的に不安定な生徒たちは、周りに自分を理解し認めてほしいという思いが最も強い時期である。また現代の情報化社会の中で、生徒たちは驚くほど多くの情報を得ている。しかし公的な場で、自分の考えや得た情報を伝えたり、他者から情報を受け取る意欲や機会は意外に少ない。
- ②21世紀社会の課題として、ジェンダーをめぐる問題が近年重要視されてきている。性役割や就職問題・メディアなどを通して、私たちを取り巻く日常生活はこのような問題と関わらざるを得ないような状況にさらされており、生徒たちの関心も非常に高い。

(3)指導目標

- ①「伝え合う力」の基本を理解し、これからの学習に生かそうとする。 →情報の正確な理解
- ②「ジェンダー」に関する課題を日常生活や経験から選び、文章構成や具体例の説明の仕方に気をつけながら発表原稿をわかりやすく記述する。
→情報の選択・構成、日常・経験の再発見
- ③絵や図、グラフを用いるなど、説明をわかりやすくする工夫をしたり、話し方に気をつけたりしながら、聞き手によくわかる発表をする。
→情報伝達の基本と個性化、表現技術の方法
- ④自分や友達の発表の内容、発表の仕方等の評価をする。 →情報活用の自己評価能力

(4)実践計画 (7時間完了)

| 学習段階 | 国語科としての学習活動 |
|-------------------------|---|
| 1 導入 (0.5時間) | 学習に対する関心を高め、見通しや課題意識をもつ。 |
| 2 基本学習 (1.5時間) | 「伝え合う力」の基本を知る。 (1)コミュニケーションの基本モデル (2)アンケートやインタビューの方法 (3)発表・相互交流・評価方法 |
| 3 応用・個性化学習 (3時間) | (1)基本学習を生かして情報を集め、必要に応じて選択する。 (2)集めた情報をもとに発表原稿を作る。 |
| 4 発信・交流・評価学習 (1.5時間) | (1)発表原稿や資料をもとに「ジェンダーに関する発表会」を行う。 (2)「評価カード」の観点により、論理的な発表と評価の方法を学ぶ。 |
| 5 まとめ (0.5時間) | 学習を通して学んだことを明確にし「伝え合う力」の基本から個性化への方法を一般化する。 |

3. 国語科学習指導案—「伝え合う力」を育てる発信型の国語科学習—資料1 参照

4. 指導の実際

(1) 学習段階1—「導入」— (1時間)

導入では、「ジェンダーに関するアンケート」(資料2)の記述を行った。アンケートの主旨は、これまで当たり前のように思っていたことで、ふと変だと感じるような日常生活のジェンダーに関する問題に体験的に気づかせ、問題意識をもたせることである。

アンケート項目として、1女性(または男性)でよかったと思うことは何か、2女性(または男性)でよくなかったと思うことは何か、3「女らしさ」というとどんなことをイメージするか、4「男らしさ」というとどんなことをイメージするか、5テレビ(ドラマやCM)やマンガなどで、「女らしさ」(または「男らしさ」)はどのように描かれていると思うか、6あなたが今、あるいは将来「自分もそうなりたい」と思うのはどういう女性か(または男性か)とした。アンケートの最後には生徒にとっておそらく初めて耳にする「ジェンダー」という用語とその意味を知らせ、今後の学習の見通しをもたせた。また、このアンケートや学習全体のテーマを「自分らしい生き方を考えるために」とし、ジェンダーという観点から、より自分らしい生き方を探ることも学習のめあての一つであることを伝えた。その後アンケートの意見を分析し、生徒の興味・関心の方向を確認して、今後の指導に生かした。

資料3は「ジェンダーに関するアンケート」のまとめである。1番「女性または男性でよかったと思うこと」として、女子の1位はファッションに関すること、2位に「男ほどきつく叱られない」など女性の特権に関することが選ばれている。男子の1位には就職率の高さや家父長制などの「社会の男性に対する価値観」が選ばれ、現在の社会や家庭における男性の在り方を考えさせられる結果となった。

2番「女性または男性でよくなかったこと」として、女子の1位は「身体」に関することが選ばれている。この時期の女子は自分自身の体のことでコンプレックスをもっており、それが結果として表れてきている。

次に3番の「女らしさのイメージ」であるが、女子の1位に「性格」が選ばれているのに対して、男子の1位には「外見」選ばれており、「女らしさ」に関する男女の視点の違いがうかがえる。

4番の「男らしさのイメージ」は男女ともに1位が外見、2位が性格となっている。しかし特に「性格」に関して選ばれた観点が男女で全く違い、女子は「決断力がある」など、頼れる存在として男性を見ていることがわかる。

また5番の「テレビやマンガなどで女らしさや男らしさはどのように描かれているか」については多少の違いはあるものの男女ともに「女らしさ」は料理、化粧、ファッション等のイメージがあるのに対し「男らしさ」は仕事関係のイメージが強いことがわかる。

最後に6番「理想の女性・男性像」には、実に様々な意見が出されたが、特に女子は「家庭と仕事を両立

資料1 国語科学習指導案

「伝え合う力」を育てる発信型の国語科学習
 —ジェンダーをめぐる問題をテーマとして—
 中学3年生学習指導案

指導者 左近妙子

1 指導目標

- (1) 「伝え合う力」の基本を理解し、これからの学習に生かそうとする。
 → 情報の正確な理解
- (2) 「ジェンダー」に関する課題を日常生活や経験から選び、文章構成や具体例の分析的な説明の仕方に気をつけながら、発表原稿をわかりやすく記述する。
 → 情報の選択・構成、日常・経験の再発見
- (3) 絵や図、グラフを用いるなど、説明をわかりやすくする工夫をしたり、話し方に気をつけながら、聞き手によくわかる発表をする。
 → 情報伝達の基本と個性化、表現技術の方法
- (4) 自分や友達の発表の内容、発表の仕方等の評価をする。
 → 情報活用の自己評価能力

2 授業計画（7時間完了）

| 段階 | 時 | 学習内容 | 指導・支援と評価 |
|------|---|--|--|
| 導入 | 1 | 「ジェンダーに関するアンケート」の記述をする。 | <支>「ジェンダーに関するアンケート」を記述させ私たちを取り巻く日常生活が、ジェンダーをめぐる問題と大きく関わっていることに気づかせる。 <評>日常生活におけるジェンダーをめぐる問題について、自分なりの問題をもつことができる。またこれからの学習の見通しをもつことができる。 |
| | 1 | 1 「ジェンダーに関するアンケート」のまとめを読み合う。 2 ジェンダーに関する基本学習を行う。 | 1 <支> いろいろな意見を紹介し、他の生徒の考え方について話し合わせることで、学習に対する関心を高める。 2 <支> ジェンダーに関する基本学習（性役割、結婚育児、職場での問題等）を3枚の資料を用いて行い、ジェンダーの基本を確認する。 3 <支> 4枚の資料を用いて「伝え合う力」の基本をわかりやすく示す。 |
| 基本学習 | 1 | 「伝え合う力」の基本学習を行う。 (1) コミュニケーションの基本モデル (2) アンケートやインタビューの方法 | (1) コミュニケーションの仕組み、考えのフィルターとコミュニケーション (2) アンケート・インタビューの目的、方法、生かし方 |
| | 2 | (3) 発表・相互交流・評価方法 | (3) 話し方・聞き方の基本、深まりのある話し合いをするためのポイント <評>「伝え合う力」の基本を理解し、これからの学習に生かそうとすることができる。 |
| 応用 | 3 | 1 基本学習を生かしてジェンダーに関する情報を集め、必要に応じて選択する。 | 1 <支> 国語が苦手な生徒の負担を減らし、全員が楽しみながら学習できるよう、グループ学習とする。一人一人の個性が生かせるようにグループ編成について特に配慮する。 <支> 生徒の個性は、問題の発見や具体例の選択に表れる。生徒の個性が発揮できるよう、関心の在りかを聞いたり、情報収集の方 |

| | | | |
|------------|---|--|---|
| 個性化学習 | 4 | 2 集めた情報をもとに発表原稿を作る。 | 法を確認したりする。情報収集についても支援する。 2 <支> ワークシートを用いてグループ別に文章構成指導を行い、「なか」と「まとめ」の整合性などを確認する。詳しくわかりやすい原稿を書くために、名前や数字などを具体的に書くように知らせる。また絵や図、グラフなど、説明をよりわかりやすくするための資料も工夫させる。 <評>「ジェンダー」に関する問題を日常生活や経験から選び、文章構成や具体例の分析的な説明の仕方に気をつけながら、発表原稿をわかりやすく記述することができる。 |
| | 5 | | |
| 発信・交流・評価学習 | 6 | 1 基本学習で学んだ効果的な発表をするためのポイントを、「評価カード」で再度確認する。 2 発表原稿や資料をもとに「ジェンダーに関する発表会」を行う。 | 1 <支> 「評価カード」を配布して具体的な評価の観点を示し、それを意識しながら発表させるようにする。 2 <支> 以下の観点を示し「評価カード」に記入させることにより、自分や友達の発表の内容、発表の仕方等の評価をする。 <評>（「発表の自己・相互評価カード」参照） ① 「むすび」（意見）は明確か ② 「なか」（具体例）はくわしくてわかりやすいか ③ 「なか」（具体例）と「まとめ」（考察）のつながりはよいか ④ 選んだテーマや説明の仕方は個性的でおもしろかったか ⑤ 話している時の表情や視線、姿勢に気をつけて話すことができたか ⑥ 聞き手の反応を見ながら、声の大きさや速さ、間の取り方、強弱などを工夫して話すことができたか ⑦ 決められた時間を守って話すことができたか ⑧ 聞き手の反応を確かめながら、詳しく話したりあらかし話したりすることができたか ⑨ 絵・図・グラフなどの資料を効果的に使いながら、工夫して話すことができたか ⑩ 話し手を見ながら、集中して話を聞くことができたか ⑪ 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができたか ⑫ 話し手の一番伝えたいことは何かを考えながら聞くことができたか ⑬ 自分なりの考えをもちながら話を聞き、大切だと思ったことはメモを取りながら聞くことができたか |
| | 7 | 3 友達の発表の内容や発表の仕方について話し合う。 | 3 <支> 深まりのある話し合いをするためのポイントを確認し、自分なりの考えを広げたり深めたりできるようにする。 <評> 絵や図、グラフを用いるなど、説明をわかりやすくする工夫をしたり、話し方に気をつけながら、聞き手によくわかる発表をすることができる。また自分や友達の発表の内容、発表の仕方等の評価をすることができる。 |
| まとめ | 7 | 学習のまとめと一般化を行う。 | <支> 学習を通して学んだことを明確にし、「伝え合う力」の基本から個性化への方法を一般化する <評> 学習を通して学んだことを明確にして、今後の学習に生かすことができる。 |

資料2 ジェンダーに関するアンケート

自分らしい生き方を考えるために
— 「ジェンダー」に関するアンケート — ※は発問の意図

- 女性(または男性)でよかったと思うことは何ですか。
例: 「女性はおしゃれができる」「男は社会的に認められやすい」
 - 女性(または男性)でよくなかったと思うことは何ですか。
例: 「女性トイレは行列ができる」「男は子どもが産めない」
男性、女性であることの利点・欠点を指摘することにより、男女の「性」(sex)の違いだけでなく、ジェンダーによる差別が存在することに気づかせる。
 - 「女らしさ」というと、どんなことをイメージしますか。
例: 「優しい」「母親」
 - 「男らしさ」というと、どんなことをイメージしますか。
例: 「たくましい」「強い」「仕事優先」
社会における価値観が「男らしさ」「女らしさ」の性別を強調しており、それぞれのイメージが植え付けられていることを意識化させる。
 - テレビ(ドラマやCM)やマンガなどで、「女らしさ」(または「男らしさ」)はどのように描かれていると思いますか。
例: 「エプロンをつけた母親」「スーツを着たサラリーマン」
女性、男性はかくあるべしという性別役割の規範をメディアが発信していることに気づかせる。
 - あなたが今、あるいは将来「自分もそうになりたい」と思うのはどういふ女性(または男性)ですか。
例: 「自立した人」「周りに必要とされる人」「安室奈美恵…子どもができてこれまでも同じように仕事を続けているから」「木村拓也…自分をしっかりもっているから」
理想の人間像(男性像・女性像)を考えることにより、今後の「自分らしい生き方」を探っていくこととする意欲を高める。
- ※ 「ジェンダー」(gender)を日本語に訳すと「性」となります。これは生物学的な区別としての「性」を意味するものではありません。「ジェンダー」とは、「男はこうあるべきだ」「女はこうあるべきだ」といった社会的枠づけや、「男らしさ」「女らしさ」といった固定的な「らしさ」を意味します。つまり「ジェンダー」とは、人間の社会や文化によって創られた「性」のイメージや考え方をいいます。
皆さんが書いてくれたこのアンケートは、国語科の学習を通して、新しい教育の一つである「ジェンダーの学習」をしていくための大切な資料とします。
- 生徒にとって初めて耳にする「ジェンダー」という用語とその意味を知らせ、今後の学習の意欲と見通しをもたせる。

し、自分が好きな仕事をやり続ける」等、自立した女性を目指す意見が多く見られた。それに対して男子の多くは実在の人物を例として挙げるなど、理想の男性像に非常に具体的なイメージを抱いている傾向にある。

このようなアンケート結果のまとめを読み合い話し合うことで、友達の考え方を知り、自分の考えとの共通点、違う点を確認して学習に対する関心を高めた。

(2)学習段階2 — 「基本学習」 —

この段階では、「コミュニケーションの基本モデル」「アンケートやインタビューの方法」「発信・相互交流・評価方法」を学び今後の学習に生かす「伝え合う力」の基本学習を行った。それぞれ「伝え合う力」を育て、人と豊かにコミュニケーションをしていくという観点から指導事項を焦点化し、4枚の資料を用いて学習した。

「コミュニケーションって何だろう?」(資料4)では2つの図を使って「コミュニケーションの仕組み」について学習した。一般的なコミュニケーション論などの研究は数多くあるが、国語教育に生かせる形での図式化は難しく、これまであまり実践されていなかったのが今回このような形で実践化を試みた。コミュニケーションは単に「話し手」と「聞き手」と「情報」から成り立っているのではなく、場面意識や文化的状況にも依存しているという立体的な仕組みを捉えることが「伝え合い」では重要となるので、例を挙げながら説明した。またコミュニケーションにおいて「話し手」がどのようなメッセージの方法を選んでいるかに

資料3 ジェンダーに関するアンケートのまとめ

「自分らしい生き方を考えるために」

— 3年生男子37名、女子43名の「ジェンダー」に関するアンケートのまとめ —

(複数回答を含む)

- 女性(または男性)でよかったと思うことは何ですか。

| 女子 | 男子 |
|---|--|
| 第1位……ファッションに関すること (33人) 【例】化粧ができる、ズボンとスカート両方はける等 | 第1位……男に対する社会の考え方にすること (10人) 【例】就職での採用率が高い、家族の長になれる |
| 第2位……女性の特権に関すること (10人) 【例】男ほどきつく叱られない、彼氏におごってもらえる | 第2位……体に関すること (9人) 【例】どこでも着替えられる、トイレが短く済む |
| その他……トイレに戸がある、女は口が強い | その他……いつまでも冒険が許される |
- 女性(または男性)でよくなかったと思うことは何ですか。

| 女子 | 男子 |
|--|---|
| 第1位……体に関すること (15人) 【例】体の脂肪が多い、力で男に負けてしまう | 第1位……体に関すること (10人) 【例】男には急所がある、ハゲる可能性が高い、男は暑苦しい |
| 第2位……女性差別に関すること (12人) 【例】行儀悪くできない、なりたくない職業につきにくい | 第2位……特になし (7人) |
| その他……美容院の値段が高い、女同士のつきあいは面倒臭い | その他……思いつき泣けない、女性の方が何かとサービスがよい |
- 「女らしさ」というと、どんなことをイメージしますか。

| 女子 | 男子 |
|--|---|
| 第1位……性格に関すること (33人) 【例】おしとやか、礼儀正しい控えめ | 第1位……外見に関すること (20人) 【例】髪が長い、背が低い、まゆげが細い |
| 第2位……外見に関すること (29人) 【例】華やか、清潔、上品、色白、目が二重 | 第2位……性格に関すること (12人) 【例】優しい、おとなしい、家庭的、我慢強い |
| その他……守ってあげなきゃという感じ手が器用、女子校 | その他……松嶋奈々子、お母さん、長生き |
- 「男らしさ」というと、どんなことをイメージしますか。

| 女子 | 男子 |
|--|---|
| 第1位……外見に関すること (33人) 【例】マッチョ、色が黒い、のどぼとけ、ごつい | 第1位……外見に関すること (16人) 【例】マッチョ、汗くさい、ダンディー |
| 第2位……性格に関すること (18人) 【例】頼りになる、決断力がある、深い、さっぱりしている、さばっている | 第2位……性格に関すること (9人) 【例】優しい、けじめをつける責任感がある、勇気がある |
| その他……泣かない、お父さん | その他……寅さん、矢沢英吉 |
- テレビ(ドラマやCM)やマンガなどで、「女らしさ」(または「男らしさ」)はどのように描かれていると思いますか。

| 女子 | 男子 |
|--|--|
| <女らしさ> ・料理をする母 ・かわいい、きれいな女 ・目がキラキラしている女 ・スカートをはいている女 ・助けられる役の女 ・除で支えている女 ・顔の半分が目(マンガ) | <女らしさ> ・ショートヘアーの女 ・着物を着た女 ・年をとっても若い女 ・にくじゃがつくる母 ・ミニスカートをはいた女 ・化粧をする女 ・気が強い女 |
| <男らしさ> ・会社で働く男 ・ネクタイ・スーツを着ている男 ・色黒で筋肉のある人 ・新聞を読むオジサン ・仕事優先の男 ・ドリンク剤を飲む男 ・亭主閑白 | <男らしさ> ・ジーンズが似合う男 ・上半身裸の男 ・何か一つのこと燃えている男 ・サラリーマン金太郎 ・弱い者を守る男 ・けん力が強い男 ・満員電車に乗る男 |
- あなたが今、あるいは将来「自分もそうになりたい」と思うのはどういふ女性(または男性)ですか。

| 女子 | 男子 |
|--|--|
| ・人のためになることができる人 ・強い女になりたい ・目標をもつ人 ・自分に自信がある人 ・さばさばした人 ・手に職のある人 ・男に頼らず結婚しても働いている人 ・他人に流されない人 ・好きなこと、したいことができる人 ・人から必要とされる人 ・何をやってもかっくよく決まる人 ・幸せな母親 ・結婚しても仕事と家庭の両立ができる人 ・自分の好きなことをやりつつ、家庭をちゃんもっている人 ・周りにたえず人がいて、忙しい生活を送るキャリアウーマン ・自分のことくらい、自分で考えることができる人 ・市原悦子…なんかのほほんとして人生を楽しくていそう ・デヴィ夫人…あれだけ自己主張ができる人はすごい ・浜崎あゆみ…自分で思ったことを作詞・作曲して歌っているから ・「ショムニ」の中の江角マキ子…自分を信じて生きている、かっこいい | ・認められる人 ・才能を生かせる人 ・注目される人 ・社会の役に立つ人 ・信頼される人 ・「芯」のある男 ・しぶくてかっこいい男 ・完成された肉体をもつ男 ・まわりに幸せを分けてあげられるような寛大な男 ・リストラされない人 ・ファール…趣味に生き、まわりから非難されても信念を守り続けるから ・ジャイアント馬場…死ぬ直前まで好きなことに打ち込めたから ・中尾あきら…ダンディーな生き方に思えるから ・松田優作…しぶくてステキであこがれる生き方だから ・西条秀樹…永遠のヤングマンだから ・反町隆史…すべてにおいて最高だから ・池森秀一…自分の考えをしっかりと持っているところがいい ・「ドラえもん」のジャイアン…いじめっ子で強いのに、実は優しい男というのがいい |

より、「話し手」の配慮や、「話し手」と「聞き手」の人間関係等を理解する手掛かりとなる。生徒はこのコミュニケーションの基本モデルを話し合うことで、情報はどのような仕組みで伝えられ理解されるかというコミュニケーションの仕組みの一端を、自らの体験と関連させながら理解することができた。

またここでは、非言語的コミュニケーションを含めた音声言語と文字言語との違いを押さえた。このような知識は中学生には難解であると思われるが、自分の主張や発見を効果的に伝え、他者から豊かに学ぶためにも、こうした特質を学習者のレベルに合わせて段階的に繰り返し指導していくことが今後ますます必要になってくると思われる。

「インタビューの方法」(資料省略)では、「伝え合う力」を育てるためのインタビューの在り方という観点で資料を作成した。ここでのポイントは「インタビューの方法」を、事実を論理的・分析的に捉えるという観点から具体的に示したことで、インタビュー活動を人間関係・コミュニケーションの方法の練習の場として位置付けたことである。

アンケートは学校生活だけでなく日常生活の様々な場面で行われているが、ここでは国語の学習として立場や視点をはっきりさせた「アンケートの方法」(資料省略)を示した。特にアンケートのポイントとなる項目の選び方や結果の読み取り方を、実際のアンケートを例として挙げながら説明した。

確かに伝え合い、豊かな話し合いを成立させるためには、そのための観点や方法の指導・支援が必要である。「発表・相互交流・評価の方法」(資料5)の1番は確かに「伝え合う」ための言語能力の観点で、2番は聞き手の問題意識や学び方を育てるための観点である。2番の観点について言及する。(1)の感心できること、驚けることも大切な学力の一つである。(2)では、友達の報告の良さや特色を「自己発信」に生かす態度を育てる。(3)では「意見」や「考えこと」と区別して「分からないこと」や「聞き逃したこと」を自覚的に聞くことにより、自分との関わりから「豊かに」聞くための基本的な観点を教える。(4)は伝え合う力の重要なポイントとなる。聞き手が、報告内容や方法と、自分の生活経験とを結びつけて考える習慣や態度を普段から身につけさせることが大切であると考えられる。

またこの学習段階では、先程の「ジェンダーに関するアンケートのまとめ」と合わせて、A4の3枚の資料(省略)を使いジェンダーに関する基本学習を行った。まず松本侑子の「ダブル・バインド」というエッセイを読み合うことで問題提起とした。続いて結婚、育児、職場でのジェンダー問題を紹介して話し合い、ジェンダーの基本を確認した。

(3)学習段階3ー「応用・個性化学習」ー

「応用・個性化学習」は、基本学習を生かしてジェ

ンダーに関する情報を集め、発表原稿をつくる学習である。国語が苦手な生徒の負担を減らし、全員が楽しみながら学習できるようグループ学習とした。資料6のA4のワークシートを用い学習を進めた。まず1番で個性的な発表のテーマを決め、テーマを選んだ理由を記述させた。次に2番として、情報を集める方法を考えた。例を挙げながら指導したが、なかなか方法が決まらない班には個別に支援した。3番では実際に発表のための情報を集めた。

資料6に挙げた班は「現代の女性、男性について」というテーマを選び、2人の先生方にインタビューして意見をうかがうという方法を選択した。「基本学習」の「インタビューの方法」と合わせてインタビュー用紙(省略)を作成しておき、インタビューをする班に渡した。生徒は事前にインタビュー項目まで記入しておきインタビューに臨んだところ、予想以上に多くの情報を引き出すことができた。インタビューを受けた先生方から「初めのあいさつやお礼がしっかりでき、話を真剣に聞いてくれて気持ち良かった」「メモの取り方や聞き方がしっかりしていたので、自分が思っていたよりも多くのことを伝えることができた」等の感想をいただき「基本学習」が活着していることを確認することができた。ここからも「基本学習」として学び方を教えることは、生徒が他から認められ、一人一人の良さや個性を発揮する上で重要であることがわかる。

次にグループの一人一人が原稿を書き、わかりやすい説明の仕方を選びながらグループで一つの原稿を作った。書き終えた班には個別指導により「なかとまとめ・むすびは整合しているか」「なかの記述は詳しくわかりやすいか」などの評価の観点から添削し、推敲させた。発表のための資料は時間数短縮のためA4の用紙に書かせ、拡大装置でB紙に拡大し、それを見やすくするために色をつけたり枠で囲ったりした。

発表やスピーチの内容を、発表原稿としてすべて文字言語として表現することは、本当の意味での音声言語指導ではないとの批判もある。しかし今小中学校の子どもたちに必要なのはその場で消えていくような表面的な意味での活気のあるスピーチや話し合いではなく、論理的思考に基づく音声言語の学習である。論理的で個性的な文字言語とクロスさせた音声言語指導こそ「伝え合う力」を育成することにつながると思われる。

(4)学習段階4ー「発信・交流・評価学習」ー
全グループが発表原稿の清書を完成させた後「発信・交流・評価学習」として、「自分らしい生き方を考えるために(ジェンダーに関する発表会)」を行った。はじめに「自己・相互評価カード」を配布し、「基本学習」で学んだ「発表・交流・評価の方法」と合わせて発表の方法と観点を示した。「自己評価カード」(資料7)は、すべての生徒に無理なく記入させるためにそれぞれの項目について◎、◎、○の三段階評価

資料4 コミュニケーションって何だろう？

基本学習 1

「コミュニケーションって何だろう？」
—— コミュニケーションの仕組みを知る ——
3年 () (組) () (番) ()

1 コミュニケーションの仕組み
文化的状況(民族・歴史・国家・政治・宗教など)

〈例〉(1) アルゼンチンの虹の色と日本の虹の色
(2) はっきりとした言葉の多い英語とあいまい語の多い日本語
場面的状況(立場・目的・相手・場面・時間など)

◎ 話し手の世界
生き方、経験、思想、
住んでいる国、属する社
会、価値観

◎ 聞き手の世界
生き方、経験、思想、
住んでいる国、属する社
会、価値観

※ 言葉、文字、記号、表情、身ぶり手ぶり、絵・図・表、手話、点字
など

互いに伝え合い、認め合う

基本学習 2

「考え」のフィルターとコミュニケーション

互いに伝え合い、認め合う

「考え」のフィルターとは？

(1) 話し手(聞き手)は、どのような立場の人か(考えや思い、過去の経験や生き方)

(2) 話し手が情報を送る目的は何か、聞き手が情報を受け取る目的は何か(情報の伝達や紹介、脱得、約束、気分の表現)

(3) 話し手が聞き手とコミュニケーションをとるために選んだ情報は適切か、聞き手の解釈は正しいか

資料5 発表・相互交流・評価の方法

基本学習 4

発表・相互交流・評価の方法
—— 確かに伝え合い、「話し合い」を深めるために ——
3年 () (組) () (番) ()

1 話し方・聞き方の「基本」

| 話し方 | 聞き方 |
|---|---|
| (1) 話している時の表情や視線、姿勢に気をつけて話すことができる。 | (1) 話し手を見ながら、集中して話を聞くことができる。 |
| (2) 聞き手の反応を見ながら、声の大きさや速さ、間の取り方、強弱などを工夫して話すことができる。 | (2) 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができる。 |
| (3) 決められた時間を守って話すことができる。 | (3) 話し手の一番伝えたいことは何かを考えながら聞くことができる。 |
| (4) 聞き手の反応を確かめながら、詳しく話したり、あらく話したりすることができる。 | (4) 自分なりの考えをもちながら話を聞き、大切だと思ったことはメモを取りながら聞くことができる。 |
| (5) 絵・図・グラフなどの資料を効果的に使いながら、工夫して話すことができる。 | |

ポイント

姿勢・視線・表情

ポイント

態度・集中力

声の大きさ・はっきりした発音・強調の方法

メモの取り方・自分の意見

2 深まりのある「話し合い」をするためのポイント

1 感心したこと、驚いたことは何処

友達の内容・発表の仕方について、感心したことを指摘しよう。

2 自分の発表に生かしてみたい部分はどこ

友達の良い発表を見つけて、自分の発表に生かそう。

3 質問したいこと、確認したいことは何処

友達の良い発表を聞いて、「わからなかったこと」や「聞き逃したこと」を質問しよう。

4 考えたことや感じたことは何処

友達の良い発表についての自分の意見や感想を言おう。

資料6 発信のためのワークシート

応用・個性化学習 1

自分らしい生き方を考えるために

——「ジェンダー」に関する発表会をしよう——

3年()組()番()

1 発表のテーマを決めよう (テーマを選んだ理由も書こう)

テーマ……現代の女性・男性について

テーマを選んだ理由……女性から見た男性、男性から見た女性について知りたかったから。

※ 例……君は同性派？ それとも別姓派？ —— 夫婦別姓について考える ——

(理由……民法改正で最も注目されている制度で、友達への考えに興味があるから)

就職マガジン「テューダ」における男女の求人状況の比較

(理由……実際どれくらい男女の求人状況に差があるのか調べてみたかったから)

雑誌「キューティー」の中の「かわいい」女の子像

(理由……雑誌の中のいわゆる「かわいい」女の子には、型があるように思っただから)

2 発表のための情報を集める方法を考えよう

成瀬先生と布川先生にインタビューする。

(男性) (女性)

※ 例……身近な先生やお家の方にインタビューする

クラス全員を対象にしたアンケートを行い、その結果を考える

新聞や本、雑誌の調べ学習をする

マンガやテレビドラマ、CMなどを分析する

3 発表のための情報を集めよう

4 発表の構成を考えよう

※ 内容を簡単にメモしてみよう

| | |
|-----|-------------------|
| はじめ | 現代の女性・男性について |
| なか1 | 布川先生のインタビュー内容 |
| なか2 | 成瀬先生のインタビュー内容 |
| まとめ | 二人のインタビューからわかったこと |
| むすび | インタビューをして考えたこと |

自分らしい生き方を考えるために

——「ジェンダー」に関する発表会をしよう——

3年()組()番()

発表・評価学習 1

自分らしい生き方を考えるために

——「ジェンダー」に関する発表会をしよう——

3年()組()番()

1 自分や友達との発表から、効果的に学習するためのポイントを学習しよう

(1) 自分のグループの発表について評価しよう (●・○・○で評価しよう)

資料7 自己評価カード

発表・評価学習 1

自分らしい生き方を考えるために

——「ジェンダー」に関する発表会をしよう——

3年()組()番()

1 自分や友達との発表から、効果的に学習するためのポイントを学習しよう

(1) 自分のグループの発表について評価しよう (●・○・○で評価しよう)

| 聞き方 | 話し方 | 内容 |
|--|--|---|
| ⑬ 自分なりの考えをもちながら話を聞き、大切だと思っただけなら聞きながらメモを取ることができたか | ⑦ 決められた時間を守って話すことができたか (5分) | ① 「むすび」(意見)は明確か |
| ⑭ 話し手の一番伝えたいことは何かを考えながら聞くことができたか | ⑧ 聞き手の反応を確かめながら、詳しく話したり、あらく話したりすることができたか | ② 「なか」(具体例)はくわしくてわかりやすいか |
| ⑮ 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができたか | ⑨ 絵・図・グラフなどの資料を効果的に使いながら、工夫して話すことができたか | ③ 「なか」(具体例)と「まとめ」(考察)のつながりはよいか |
| ⑯ 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができたか | ⑩ 話し手を見ながら、集中して話を聞くことができたか | ④ 選んだテーマや説明の仕方は個性的でおもしろかったか |
| ⑰ 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができたか | ⑪ 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができたか | ⑤ 話している時の表情や視線、姿勢に気をつけて話すことができたか |
| ⑱ 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができたか | ⑫ 話し手の話し方や、その説明の工夫について考えながら聞くことができたか | ⑥ 聞き手の反応を見ながら、声の大きさや速さ、聞の取り方、強弱などを工夫して話すことができたか |

① 声の大きさがよい。結果がわかりやすい。② 資料が工夫してあって目をひく。内容充実。③ インタビューの内容や様子がよくわかる。まとめもよい。④ テーマがよい。発表の負担が上手。⑤ アンケートからの結果がよい。

とした。これらの項目を、教材や発達段階に応じて適宜焦点化して取り上げ、総合的に「伝え合う力」を付けていくことが大切だと考える。「相互評価カード」(資料省略)についてはそれぞれの班の発表内容や発表の仕方について一言でもいいので意見・感想を書かせ、交流のための手掛かりとした。生徒たちは、感心したこと、自分の発表に生かしたいこと、確認したいこと、考えたことなどを自分なりの視点から記述して意見を出し合い、生徒の個性が発揮された豊かな交流学習を行った。

資料8に実際の発表会の全グループのテーマと内容の一覧を載せた。各グループとも日常の中から問題を発見し、情報を集め選択し、論理的で個性的な発表原稿を書いて公的な場で発表することができた。生徒たちはこの段階では「ジェンダー」について正確に理解したとか、「ジェンダー」という視点から人間の存在や社会の在り方を見直せるようになったわけではない。しかし生徒たちが今後も「ジェンダー」について考えていくきっかけになっている。今回の学習は広い意味での「ジェンダー」に関する基本学習となった。

学習の最後に「まとめ」として、「自分らしい生きかたを考えるために」を通して考えたことやわかったことを書かせた。ある生徒は「他の班の発表から、男性、女性とする以前に1人の人間なのだとすることを改めて実感した。あくまでも『自分らしさ』が大切で、それが個性だということを知った」と書いており、この生徒にとって、この学習がジェンダーという視点から人間を見直すきっかけとなったことがわかる。

5. 考察—伝え合う力の基礎基本と「生きる力」—

資料9は『「自分らしい生きかたを考えるために」を通して考えたことやわかったこと』として生徒が記述した意見の一部である。(1)から(7)までには、生徒が自分なりに今回のジェンダーに関する学習から学んだことが記述されている。このように、発信・交流のコミュニケーションの中で新たな現実の発見をしたり、自分自身の考え方を深めたりする生徒の姿が見られた。また(8)から(10)の意見のように互いの表現の個性を認め、「伝え合う」ための方法を学びその意義や難しさに気付いたという意見も多くみられた。

このような生徒の感想や現実の再発見から、「段階的な学習過程」を構成したこと、生徒たちに「伝え合う力」の基本から個性化への方法を体験的に学ばせること、また「伝え合う」ための方法を、音声言語と文字言語とを相互に関連させながら指導・支援したことにより、確かに伝え合い、豊かな話し合いを成立させることが重要であることがわかる。

「伝え合う力」にはいくつかの段階があり、音声化のレベルの基礎(口形・発声・声量・相手や目的意識等)が習得できたら、次の段階としては「何を」「ど

資料8 生徒が発表した「ジェンダー」に関するテーマと内容

| 題名 | 情報を集める方法 | 内容 |
|--------------------------------------|----------|---|
| 1 家事は女性の仕事? | アンケート、統計 | 友達の家族の家事の分担の実態と、他国の実態との比較により、家事の分担の在り方を考えた。 |
| 2 あなたの心をつかむ人 | アンケート、雑誌 | 友達がどんなタイプの異性・同性にひかれるかをアンケートによって調べ、雑誌などの情報と比較した。 |
| 3 こんな男がイイ男? | アンケート、雑誌 | 雑誌「anan」の「イイ男」特集を分析し、一般にいう「イイ男」と、現実にもてる男との違いを考えた。 |
| 4 「ジャンプ」の中の主人公像 | 雑誌 | 「ジャンプ」の中で人気のある二人の主人公を分析し、男に受ける男はどんなタイプか考察した。 |
| 5 こんな仕事にドキドキ | アンケート、雑誌 | 異性のどんな仕事にドキドキするかを男女別に調べ、男女の視点の同じ点や違う点を指摘し、分析した。 |
| 6 モテ男とモテ子の条件 | アンケート、雑誌 | 現代の「モテる」男や女はどんなタイプか、またいわゆる「モテる」とは一体どういうことなのかを考えた。 |
| 7 TV番組は男向け?女向け? | 雑誌、新聞 | 一日のテレビ番組を調べ、テレビ番組の中における「ジェンダー」に目を向け、考察した。 |
| 8 人間関係を長続きさせるルール | アンケート、雑誌 | よく「男同士の関係はさっぱりしているが、女同士の関係はねちっこい」といわれるが、果たして本当なのか。人間関係を長続きさせるためのルールの男女の違いについて探った。 |
| 9 最近の十代の男女について聞きました! | インタビュー | 教頭先生(男)とベテランの数学の先生(女)にそれぞれの立場から最近の十代の男女についてとこれからの在り方についてインタビューした。 |
| 10 男らしさ、女らしさって何? | アンケート、統計 | 小学生と中学生のアンケート結果の比較により、「男らしさ」と「女らしさ」の世代別イメージについて考察した。 |
| 11 将来つきたい職業は? | アンケート、統計 | 男女で将来つきたい職業に違いがあるか、アンケートと、統計による同じ世代の男女の考え方を比較した。 |
| 12 あなたの好みはどんなキャラ? —人気アニメのキャラクターにせまる— | 雑誌、テレビ | アニメのキャラクター人気NO.1に選ばれた男女のキャラクターを分析し、理想の男性・女性像と、アニメと現実との違いを探った。 |
| 13 現代の女性・男性について | インタビュー | 資料6参照 |
| 14 嫌いな男、嫌われる男 | アンケート、雑誌 | 「嫌いな男」と「嫌われる男」に違いがあるかを調べ、世間が何を基準に「嫌い」なタイプを決めているかを考えた。 |

資料9 「自分らしい生きかたを考えるために」を通してわかったことや考えたこと

- (1) 私はずっと「男」とか「女」とかにとらわれないで、自分の好きなように、思うように生きていきたいと思っていました。今回の学習から、人によって、または男と女では意見が違う部分があつたんだということがわかりました。とても楽しい学習でした。(女子)
- (2) 自分で調べていろいろわかったことは、テレビや雑誌などの「イイ女」や「イイ男」には左右されていると思った。いろいろ考えることができたので、今回ジェンダーについて勉強できてよかったです。(女子)
- (3) 世間が「男女平等」とか言っているの、それが当然だと思っていた。それでもまだ「男らしく」「女らしく」と差別されたり、平等ではないことがたくさんあることがわかった。(男子)
- (4) 先生方にインタビューをした班の発表を聞いて……これまで先生方の考え方について聞くことがなかったから、とても興味があった。私も夫人の人にもっといろいろ話を聞いて、人の気持ちが変わる人になりたいなと思った。(女子)
- (5) わかったことは、自分を大事にして生きていくことが「自分らしい生きかた」だということです。だから、私は自分をもって生きていきたい。(女子)
- (6) 自分はなかなか自分自身の考え方を考えることをしませんが、人の意見を聞いて自分の考えを変えるのもまたいいと思った。
他人に迷惑をかけずに、自分を最大限に生かしていきたい。(男子)
- (7) 男女とも互いに不満が多い中、私は「分担」が大事だと思いました。きっちり平等は難しいけれど、心がければ何事もなんとかなるんじゃないかと思えます。思い込みや常識はなかなか変えられないけれど……(女子)
- (8) 一人一人の意見が全然違うことや、たとえ同じ意見だと思っても、よく話し合えば全く違うということがわかった。考えだけでなく、表現の仕方でもそれぞれで、とてもおもしろかった。(女子)
- (9) 最初は初めて自分たちで「アンケート」をつくった。集計がとても大変だったけど、みんなの考えていることを知ることができてよかった。今まで何も考えずにいろいろなアンケートに答えていたが、「アンケート」をつくる人の苦勞が少しわかった。(男子)
- (10) 今度の学習で一番おもしろかったのは、発表の仕方だ。班によっては、グラフを見やすくつづっていたり、資料と説明がうまくかみ合っていてすごくわかりやすかったり、聞いている人の反応を見ながら内容をくわしくしてたりして驚いた。自分の発表の仕方はよくなかったから、次からはもっとがんばりたい。(男子)

のように」話し、聞き、互いに関わるかという個々の思考力や表現力の個性を指導・評価するレベルの課題がある。この段階は「書くこと」「読むこと」の学習と深く関連した指導事項であり、「内容的に個性的で価値のある発表」や「自分の経験と関連させて豊かに聞き取り、友達と関わり互いに学び合う交流」ができ、「自分の報告を資料操作とともに論理的にまとめることができる言語能力」を育成することにつながる。

こうした点を踏まえて「伝え合う力」を育成するための学習のポイントについてまとめると次のようになる。なお1～3の項目は全教科の基礎として、3～5の項目は国語科固有の指導事項としてまとめている。1～5の項目は「総合的な学習」の場面でも国語科学習の応用・発展として活用される部分である。

おわりに

1 話す・聞く、話し合う「楽しさ」の体験

- (1) 自分の意見や考えに自信を持たせる
- (2) 話す・聞く態度を形成する
- (3) 話す方法・聞く方法の基礎を指導する

2 音声化の基礎学習—人間関係を創る基礎

- (1) 「声に出すこと」は他者と関係を創る第一歩
- (2) 発音・発声、抑揚・強調、非言語的表現の特色（視線・しぐさ・象徴等）

3 情報理解・発信のための基礎的学習

- (1) 話し聞く「目的」は何か（目的意識）
- (2) 誰に向かって（相手意識、人数や年齢他）
- (3) 場面や条件の理解（時間や場所、資料）

4 情報収集・選択から発信までの基礎基本学習

- (1) テーマや話題選択
- (2) 論理的で個性的な「構成」「判断」の方法
- (3) 与えられた条件の効果的な生かし方
- (4) 効果的な「情報発信」の方法と工夫

5 情報信から交流・評価への基礎基本学習

- (1) 質問や意見・批評に対する補足や解説・反論を考えて話す
- (2) 意見や批評を「正確に」「豊かに」理解して聞く
- (3) 報告を「正確に」「豊かに」聞く
- (4) 一連の学習から何かを学び考える

本研究実践の目的は、「国語はつまらない」という生徒たちに、「ジェンダー」という今日的なテーマを提示することで楽しい学習として意識させながら、現代社会の中での「自分らしい生き方」について中学生の発達段階に即して学習させること、国語科としての「言語能力の基礎・基本」を身につけ「正確で個性的な情報理解と発信・評価」に展開するような基本モデルを提案することにあった。授業数削減に伴う学習方法の改革が必要なこの時期こそ、シンプルで楽しく、学習方法・評価が具体的にわかる授業を組み立てる必要がある。

〈付記〉本稿は「第2回実践国語フォーラム（宝塚大会）」（全国国語教育実践研究会主催2000年8月18日～19日 宝塚ホテル）での、左近による研究発表の一部をまとめたものである。国語科の基礎・基本の言語能力育成の立場からジェンダー教育（入門）を取り扱った実践だが、身近なジェンダーの問題を生徒がどのように受け止め、また情報発信したか等については分量の関係から本稿では十分には述べるができなかった。生徒の情報収集・構成・発信等の詳細（資料）は省略したことをお断わりします。

〈注記・主要参考文献〉

- 1, 佐藤洋一編著『国語科を核に総合的学習を創る』（明治図書 2000年4月）。新国語科学習の授業モデル作成のための理論や評価論・指導技術・学習過程論等は本書に拠る。なお本書中の実践事例「国語科における“メディア・リテラシー”教育入門（左近妙子）」も合わせて参照されたい。
- 2, 新国語科学習の基礎基本と「総合的な学習」との関係については、佐藤洋一「総合的な学習を支える教科の基礎基本とは？—21世紀における発信型の国語科学習、その基礎基本6項目—」『授業研究21 1999年9月号』（明治図書）、同「教科の力を総合的な学習に生かす—総合的学習を支える国語科の基礎基本—」『授業研究21 2000年1月号』（同）等を参照。
- 3, 国語科の基礎基本と国語科「固有」の指導事項を踏まえた実践事例については、佐藤洋一・左近妙子「国語科における“メディア・リテラシー教育”」『愛知教育大学教育実践総合センター紀要第3号』（愛知教育大学 1999年3月）。佐藤洋一・川瀬淳子「『情報』の理解から表現への基本指導」『同 第2号』（同 1998年3月）等を参照。
- 4, 国語科におけるコミュニケーション能力の基礎基本については、左近妙子「『話すこと・聞くこと』の基礎基本指導—『書くこと』との関連と評価の方法を中心に—」『土曜国語17—特集 国語科において基礎・基本をどうおさえるか—」（名古屋国語教育研究会 2000年10月）参照。
- 5, フェミニズムやジェンダー理論の紹介・研究文献は多いが、学校教育の中でのジェンダー教育についての実践は依然として啓蒙的な段階にある。特に、本稿での提案のような国語科の基礎・基本を踏まえた具体的な実践事例となると、管見によれば皆無の状態である。今回参照した主な文献を以下に挙げる。日本ジェンダー協会編『ジェンダー学を学ぶ人のために』（世界思想社 2000年4月）、江原由美子・金井淑子編『フェミニズム』（新曜社 1997年9月）、松井やより他著『フェミニズムはだれのもの？』（増進会出版社 1996年9月）、大越愛子著『フェミニズム』（ちくま新書 1996年3月）、木村涼子著『学校文化とジェンダー』（勁草書房 1999年10月）、朴木佳織留著『「ジェンダー文化と学習」理論と方法』（明治図書 1996年9月）、小川真知子・森陽子著『ジェンダーフリー教育（フェミニズムを学校に）』（明石書店 1998年4月）等。